

# アジア・ヘルスケア株式ファンド

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第12期（決算日2020年12月21日）

作成対象期間（2020年6月23日～2020年12月21日）

第12期末（2020年12月21日）	
基準価額	11,022円
純資産総額	12,841百万円
第12期	
騰落率	19.3%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「アジア・ヘルスケア株式ファンド」は、2020年12月21日に第12期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<642681>

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

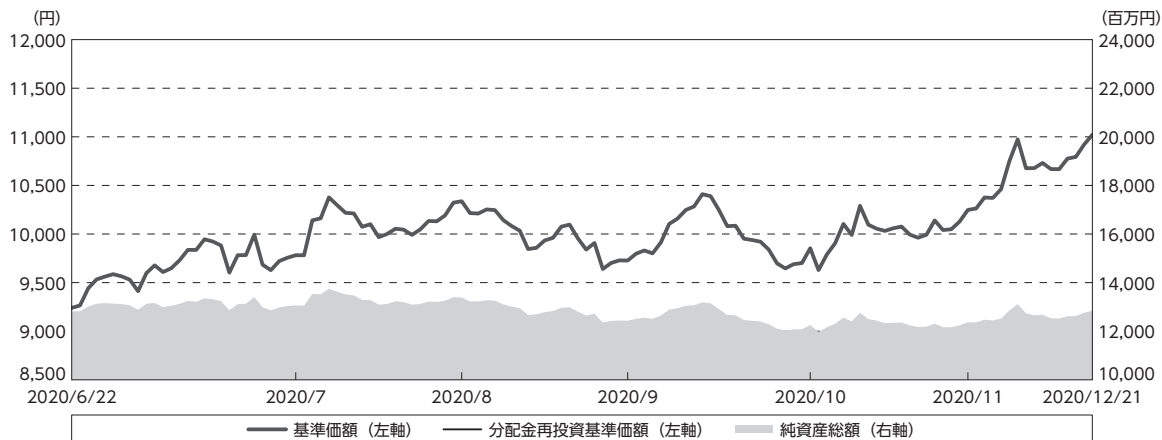
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2020年6月23日～2020年12月21日)



期 首：9,240円

期 末：11,022円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰落率：19.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2020年6月22日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・世界各国の経済活動が再開したことや緩和的な金融情勢を巡る楽観的な見方が新型コロナウイルスの感染拡大第2波に対する懸念を上回り、アジアの株式市場が反発したこと。
- ・2020年7月に、今年最大のヘルスケアの新規株式公開となった韓国のバイオテクノロジー・製薬会社の上場し、好調なリターンをもたらしたこと。
- ・新型コロナウイルスのワクチン開発に進展が見られたことや、複数の国において経済指標が市場予想を上回ったこと。

### <値下がり要因>

- ・医薬品およびステントや整形外科用インプラントといった高価格な医療消耗品への価格押し下げ圧力を巡る懸念が高まったことから中国の銘柄が軟調に推移したこと。
- ・2020年9月に、世界の景気回復が失速するとの懸念から、利益確定売りの展開となり株式市場が軟調に推移したこと。

### 1万口当たりの費用明細

(2020年6月23日～2020年12月21日)

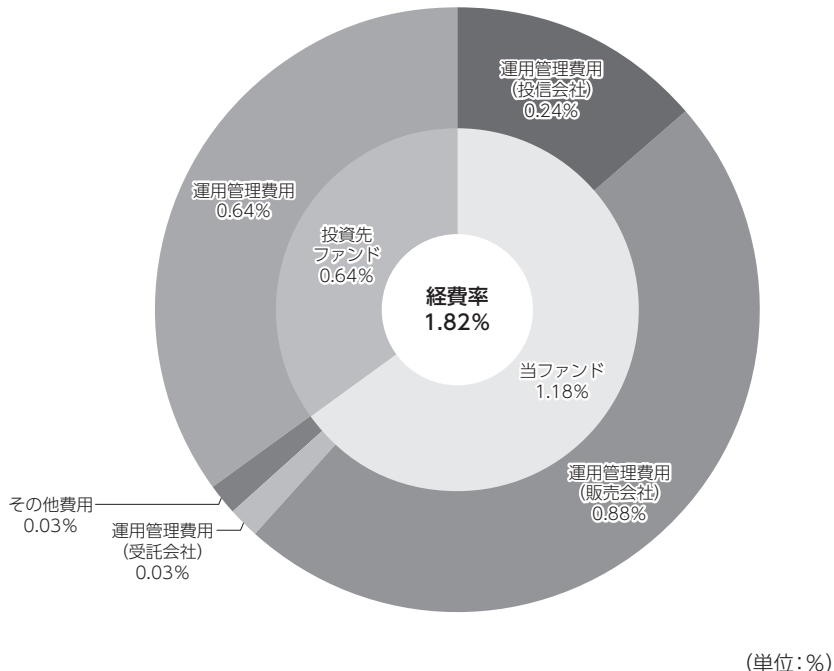
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 57	% 0.576	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(12)	(0.121)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(44)	(0.439)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	( 2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.015	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用)	( 1)	(0.013)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	58	0.591	
期中の平均基準価額は、9,918円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。
- (注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.82%です。



経費率(①+②)	1.82
①当ファンドの費用の比率	1.18
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年12月21日～2020年12月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年12月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年12月21日 決算日	2016年12月21日 決算日	2017年12月21日 決算日	2018年12月21日 決算日	2019年12月23日 決算日	2020年12月21日 決算日
基準価額 (円)	9,535	7,941	8,231	6,848	7,241	11,022
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 16.7	3.7	△ 16.8	5.7	52.2
純資産総額 (百万円)	87,801	31,774	20,845	12,890	11,316	12,841

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 投資環境

(2020年6月23日～2020年12月21日)

## (アジア株式市況)

期間中のアジアのヘルスケア市場は堅調に推移したものの、アジア株式市場をアンダーパフォームしました。投資対象国の中では韓国のパフォーマンスが良好でした。

期間の初めから2020年8月下旬にかけては、世界各国の経済活動の再開や緩和的な金融情勢を巡る楽観的な見方、また世界各国による新型コロナウイルスのワクチン開発の進展が追い風となってアジアのヘルスケア市場は堅調に推移しました。中国では、医薬品受託開発・製造企業/医薬品開発業務受託機関が、売上高と利益がともに市場予想を上回るなど上期の決算が好調な結果となったことを受けて、株価が相対的に堅調に推移しました。韓国では、バイオ医薬品分野において良好なニュースが相つぎ、同国の製薬会社によるライセンス契約締結がポジティブサプライズとなったほか、血液がん治療のバイオ後続品（バイオシミラー）の米国市場シェア拡大を受け、同国のバイオテクノロジー企業の業績が市場予想を上回りました。9月に入ると、世界の景気回復が失速するとの懸念を受けて利益確定売りの展開となりました。中国のヘルスケア市場は、年末に向けて多くの医薬品や機器の入札が開始されるなか、医薬品およびステントや整形外科用インプラントといった高価格な医療消耗品への価格押し下げ圧力を巡る懸念が高まったことを受けて、利益確定売りが見受けられました。10月から期間末にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発に進展が見られたことや、ジョー・バイデン米国次期大統領の指揮下で米国とアジアの関係改善期待が高まったこと、複数の国において経済指標が市場予想を上回ったことが追い風となり、アジアのヘルスケア市場は堅調に推移しました。

## (国内短期金利市況)

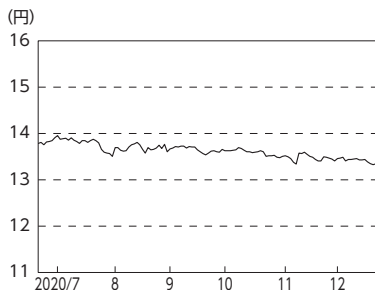
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.05%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.02%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.10%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.10%近辺で期間末を迎えました。

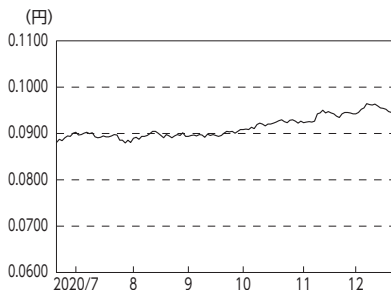
## (為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

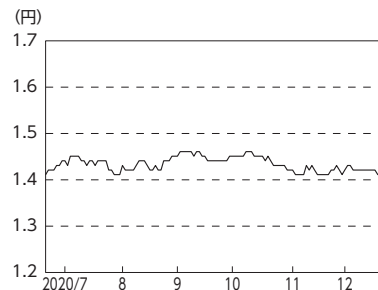
円／香港ドルの推移



円／韓国ウォンの推移



円／インドルピーの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

(2020年6月23日～2020年12月21日)

## (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

## (日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）)

韓国については、銘柄選択がプラスに寄与するなか、一部の銘柄で利益確定売りを実施しました。中国についても、バイオテクノロジー、オンラインヘルスケア銘柄の売却から得た利益で消費者向けヘルスケア銘柄の買い増しを行ないました。

当ファンドでは、医薬品企業の保有比率を維持しつつ、バイオテクノロジーを引き下げる一方、ヘルスケアプロバイダーの保有を引き上げました。タイの病院についてはポジティブな見方を継続しているものの、アセアン諸国の投資比率は引き続き低めとしました。

## (マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年6月23日～2020年12月21日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

(2020年6月23日～2020年12月21日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第12期
	2020年6月23日 ～2020年12月21日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,022

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）)

2020年11月の初めに、米国の製薬会社が同社の新型コロナウイルスのワクチンが高い有効性を示したと発表しました。その後間もなくして、同国の他の製薬会社や英国の製薬会社も同様に有望な臨床試験データを公表しました。このワクチンは新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のスパイクタンパク質を標的としており、それが適切なアプローチであることは確認されたものの、一方で十分な量のワクチンを製造、保管、輸送し、それをどうやってできるだけ多くの人に投与するかという点が大きな課題として残っています。さらに、ワクチンによる重症化、入院死亡回避、無症状感染者によるウイルス拡散の予防、ウイルスが突然変異した場合の対処方法など、未解明な点も多数あります。当ファンドでは、パンデミック（世界的な大流行）が収束するまでには長ければ1年以上かかるかもしれないと考えています。

アジアのヘルスケアセクターでは、より多くのワクチン臨床試験データが出てくるにつれ、バイオテクノロジー銘柄や医薬品受託開発・製造企業／医薬品開発業務受託機関を中心として年末にかけて利益確定売りが見られると予想しています。しかし、ヘルスケアセクターは、アジアにおける構造的成長の柱の1つであることに変わりはありません。当ファンドでは、一部の分野の割高なバリュエーションが妥当な水準に戻れば投資家の関心は戻ってくるとみており、当面アジアの新型コロナウイルスの治療薬・ワクチン開発企業は、後期臨床試験を完了して規制当局への承認申請を行なっていくなか、株価が引き続き堅調に推移すると考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## お知らせ

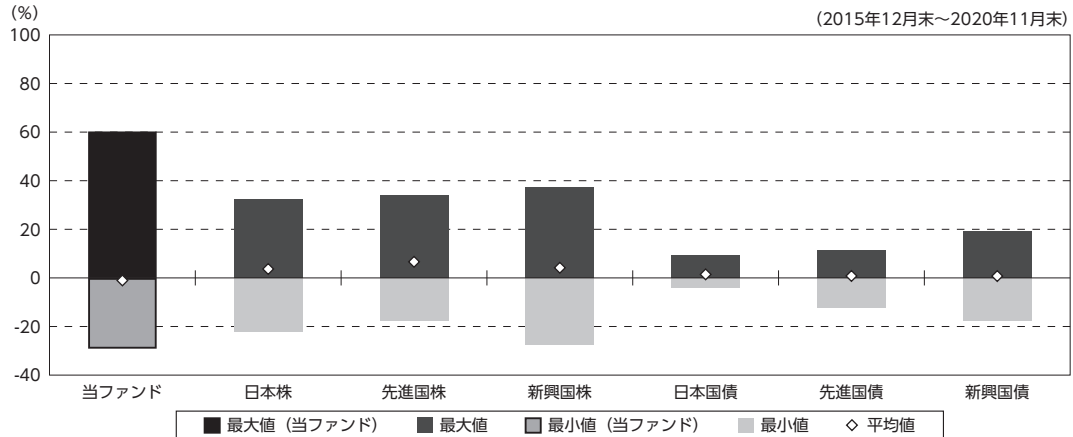
2020年6月23日から2020年12月21日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2015年1月16日から2024年12月24日までです。
運用方針	主として、アジア（日本を除きます。）各国の金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式（これに準ずるものを含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（J P Yクラス）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。大企業から中堅企業、ベンチャー企業まで、幅広いユニバースから銘柄を選択します。原則として、為替ヘッジは行ないません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	60.3	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△29.1	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	△ 1.0	3.7	6.6	4.2	1.5	0.8	0.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2016年1月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年12月21日現在)

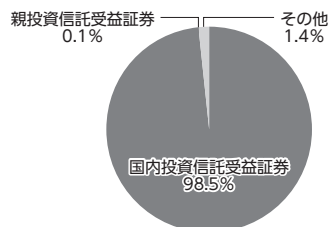
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第12期末
	%
日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）	98.5
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

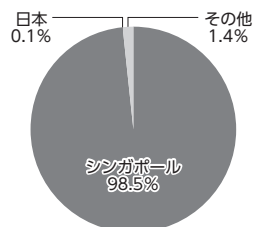
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

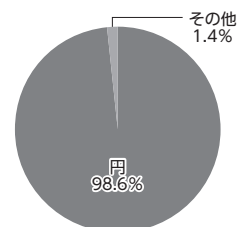
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

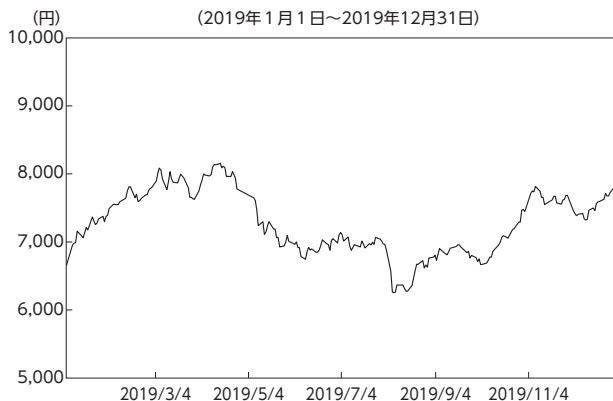
項目	第12期末
	2020年12月21日
純資産総額	12,841,141,841円
受益権総口数	11,650,274,005口
1万口当たり基準価額	11,022円

(注) 期中における追加設定元本額は1,055,774,141円、同解約元本額は3,274,006,026円です。

組入上位ファンドの概要

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月1日～2019年12月31日)  
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2019年12月31日現在)

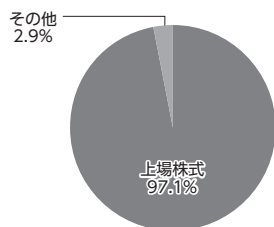
	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	比率 %
1	CSPC Pharmaceutical Group Limited	上場株式	中国	8.5
2	Celltrion Incorporated	上場株式	韓国	7.5
3	Samsung Biologics Company Limited	上場株式	韓国	6.3
4	Sinopharm Group Company Limited	上場株式	中国	4.7
5	Alibaba Health Information Technology Limited	上場株式	香港	4.5
6	Hutchison China Meditech Limited	上場株式	香港	4.1
7	Dr Reddy's Laboratories Limited	上場株式	インド	3.9
8	IHH Healthcare Berhad	上場株式	マレーシア	3.1
9	Sino Biopharmaceutical Limited	上場株式	香港	3.0
10	Beigene Limited	上場株式	中国	2.9
組入銘柄数			39銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

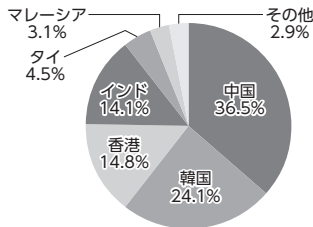
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

※必要な情報が開示されておりません。

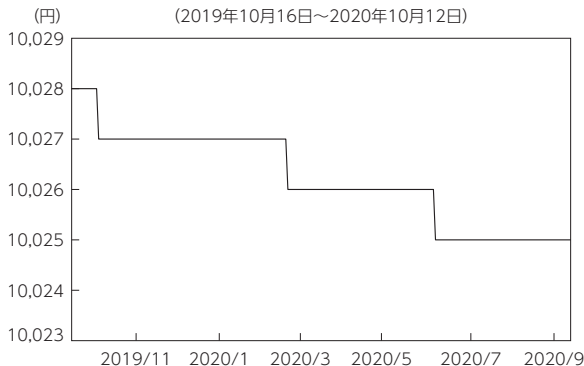
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## マネー・アカウント・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2019年10月16日～2020年10月12日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2019年10月16日～2020年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,026円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入資産の内容

(2020年10月12日現在)

2020年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。